

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25884036

研究課題名(和文) 中世後期・近世南アジアにおける信仰と倫理の相克：ガウディーヤ派を焦点に

研究課題名(英文) Faith and Ethics in Late Medieval to Early Modern South Asia: The Case of Gaudiya Vaisnavism

研究代表者

置田 清和 (OKITA, Kiyokazu)

京都大学・白眉センター・助教

研究者番号：70708627

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：16世紀にヴィシュヌ教ガウディーヤ派の思想家ルーパ・ゴースワミーによって著された『ウッジワニーラマニ』14章とジーヴァ・ゴースワミーによる注釈書『ローチャナローチャニー』の校訂、英訳を作成した。研究の結果、ルーパが14世紀カルナータカでシンハブパーラ2世によって書かれた『ラサルナヴァスターカラ』の影響を多大に受けていることが明らかになった。また、ルーパの思想が18・19世紀の後代のガウディーヤ派思想家に与えた影響を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：For this project, I prepared a critical edition and an English translation of the fourteenth chapter of Rupa Gosvami's Ujjvalanilamani and Jiva Goswami's commentary. These Goswamis played a significant role as the founding fathers of Gaudiya Vaisnavism, which was an influential tradition in early Modern South Asia. As a result of this research, I discovered that Rupa was significantly influenced by the Rasarnavasudhakara, a work written by Sinhabhupala II in fourteenth century Karnataka. I also further clarified how Rupa and Jiva influenced later Gaudiya thinkers in the eighteenth and nineteenth centuries.

研究分野：サンスクリット古典

キーワード：サンスクリット 近世 南アジア 倫理 ヒンドゥー教 宗教学 インド古典 思想史

1. 研究開始当初の背景

近年、サンスクリット文献研究の分野で中世後期・近世(14～18世紀)が注目を浴びている。同分野においてはこれまでヴェーダ、叙事詩、六派哲学関係等、12世紀以前の作品が主な研究の対象であった。一方、現代南アジアを対象とした研究ではほとんどが19世紀以降を取り上げる。しかし中世後期・近世の理解が現代南アジアの理解に不可欠である事が Sheldon Pollock 等によって指摘され、そこに焦点を当てた研究が盛んになってきている。主なプロジェクトとしては Oxford Early Modern South Asia Project, Sanskrit Knowledge Systems on the Eve of Colonialism 等が挙げられる。

しかし上述のプロジェクトでは南アジア中世後期・近世において大きな影響力を持ったヴィシュヌ教等の宗教に関する作品がほとんど取り上げられていない。例えば Sanskrit Knowledge Systems on the Eve of Colonialism では研究対象が文法学、解釈学、論理学、倫理学、修辞学、占星術、儀式に限られている。そこで申請者はガウディーヤ派ヴィシュヌ教の思想家パラデーヴァ・ヴィディヤブーシャナ(18世紀)の著作に焦点を当てて研究を進めてきた。

ガウディーヤ派は16世紀ベンガル出身のチャイタンヤが開祖である。彼は神に対する信者の信仰を、若者に対する乙女の激しい恋心に類似させて説明した。さらに、乙女と恋愛対象である若者とは婚外関係にあると彼は説いた。婚外関係は既婚関係に比べより情熱的であり、信者もそのような情熱を持って信仰を捧げるべき、と考えたからである。ここでの情熱とはサンスクリット美学における美的経験(Rasa)と関係している。チャイタンヤの直弟子ルーパがこの思想を体系化し、学派の思想的基盤を築いた。しかしパラデーヴァにとってはこの思想の倫理的側面が大きな問題であったことがこれまでの研究で判明した。18世紀ムガル帝国下において最も有力なヒンドゥー王であり、ガウディーヤ派の後援者でもあったジャイ・シン2世が、イスラーム支配者からの批判、そして民への倫理的悪影響を恐れ、神への信仰を婚外関係との類似によって説くことを否定したからである。この課題の本質を理解する為にはガウディーヤ派思想の祖であるルーパの著作に立ち戻り、彼が信仰と倫理の関係についてどう考えていたかを明らかにする必要があると思い、本研究の着想に至った。

2. 研究の目的

本研究は中世後期・近世南アジアにおける信仰と倫理の緊張関係を理解することを目的とする。そのため、当時影響力を持ったガウディーヤ派のルーパ・ゴースワミー(16世紀)に焦点をあて、彼の著作における信仰と倫理の関係を明らかにする。この課題を16世紀当時、以前、以後の倫理

観という3つの視点を通して追求する

3. 研究の方法

ガウディーヤ派思想の基盤をなすルーパの著作に焦点をあて、彼の思想における信仰と倫理の相関関係を明確にするため、下記の4項目について研究を実施する:(1)ルーパの著作の理解;(2)ルーパの引用する16世紀以前の著者、作品の理解;(3)ルーパが16世紀以降に与えた影響の理解;(4)16世紀当時のヒンドゥー教、イスラームにおける倫理観の理解。

1年目は『ウッジワラニーラマニ』14章と注釈書『ローチャナローチャニー』の校訂、英訳作成(1)(3);パラタ、ボージャ、シンハブーパーラの研究(2)を遂行。2年目はヴィシュヴァナタ・チャクラバルティーの研究(3);マヌ法典注釈書、『アフラーケ・ナーセリー』の研究(4)を遂行する。

4. 研究成果

(1)ルーパの著作の理解

京都大学文学研究科インド古典研究室において横地優子教授、Diwakar Acharya 准教授、Somdev Vasudeva 特定教授の協力を得て、週一度講読会を開催、(2013年10月～2014年1月、2014年4月～7月、2014年10月～2015年1月)、ルーパ・ゴースワミー著『ウッジワラニーラマニ』14章71節～210節と同箇所に対するジーヴァ・ゴースワミーによる注釈書『ローチャナローチャニー』の校訂、英訳を作成した。

この研究成果に基づき、以下の国際会議での発表を予定している 'Salvation through Colorful Emotions: Aesthetics, Colorimetry, and Theology in Early Modern South Asia', XXI World Congress of the International Association for the History of Religions, 2015年8月27日、エルフルト(ドイツ)。

また、2014年8月7日～15日には京都大学文学研究科インド古典研究室と京都大学白眉センターの協力を受け the Ninth International Intensive Sanskrit Retreat を開催(北海道上川郡天人峡)海外の6大学(オックスフォード大学、ライデン大学、ハンブルク大学、イエール大学、ハーヴァード大学、Eötvös Loránd University)、国内の4大学(日本医療大学、京都大学、広島大学、九州大学)から計20名の参加者が集まった。この講読会ではテキストの一つとして『ウッジワラニーラマニ』1章20節、21節とそれに対する注釈書を読み、その結果ルーパが婚外説を支持するのに対し、注釈書の著者であり、ルーパの甥にあたるジーヴァは既婚説を説いたことが明らかになった。この発見に関連した学会発表()を行い、その結果を International Journal of Hindu

Studies から論文として出版予定である ('Ethic and Aesthetic in Early Modern South Asia: A Controversy surrounding the Bhagavata Purana Book X' 提出済み、現在査読の結果待ち)。

その他、チャイタンヤとルーパの婚外説についての研究 (雑誌論文)、ルーパの著作に対する学術的研究の方法論についての論文 (雑誌論文) を出版した。また 2014 年 2 月にダッカ大学 (バングラデシュ) を訪問し、『ウッジワラニーラマニ』と注釈書『ロチャナローチャニー』のデジタルコピーを入手した。

(2) ルーパの引用する 16 世紀以前の著者、作品の理解

『ウッジワラニーラマニ』14 章の研究の結果、ルーパが 14 世紀カルナータカでシンハブーパラ 2 世によって書かれた『ラサールナヴァスターカラ』の影響を多大に受けていることが明らかになった。このルーパとシンハブーパラの関係については既存の研究ではほとんど無視されてきた。そこで両者の関係性について組織的に考察し論文を以下の国際学会で発表する予定である。 'The Karnataka Connection: Sinhabhupala II ' s Influence on Bengali Vaisnava Aesthetics ' , 16th World Sanskrit Conference, 2015 年 6 月 29 日、バンコク (タイ) ; 同題、12th International Conference on Early Modern Literatures in North India, 2015 年 7 月 19 日、ローザンヌ (スイス) 。

(3) ルーパが 16 世紀以降に与えた影響の理解

18 世紀のガウディーヤ派思想家であるバラデーヴァがマドヴァ・ベーダーンタの思想を使って婚外説を正当化する課程を描いた博士課程論文を著書、論文として出版した (図書、) 。

2015 年 2 月に Bangla Language Institute (ダッカ、バングラデシュ) を訪問、Shimanta Roy 氏の助けを借りて以下の 2 点のベンガル語文献を英訳した。18 世紀のガウディーヤ派思想家で既婚説を支持したクリシュナデーヴァ・バッターチャールヤが関わった公開討論に関する文献 ; 19 世紀ガウディーヤ派の思想家バクティヴィノーダ・タークラの『ブラフマサムヒター』についての注釈書。この注釈書においてバクティヴィノーダは婚外説と既婚説の折衷を試みている。

これらの文献の分析の結果を 2015 年 3 月の国際学会で発表 (学会発表) した。発表論文は学会プロシーディングの一部として Routledge Hindu Studies Series から 2016 年に出版される予定である。また同

論文を 2015 年 12 月に開催される国際ベンガル学会 (東京外語大学、東京都府中市) で発表する予定である。

(4) 16 世紀当時のヒンドゥー教、イスラームにおける倫理観の理解。

近世南アジアにおけるヒンドゥー教徒とムスリムの関係についての考察を発表 (学会発表) 。またベネツィア大学の Stefano Pello 教授の協力のもと、現在ペルシア語文献において婚外説が否定的に見られていたかどうか調査中である。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

Okita, Kiyokazu, Devotion and Poetry in Early Modern South Asia: A Gaudiya Vaisnava Interpretation of a Mukataka Verse Attributed to Silabhattacharika, Journal of Indological Studies, 査読有, Vol. 24, 2014, 187-201

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~hit/shuppan-j.html>

Okita, Kiyokazu, Hindu Theology and the Question of Qualification: A Study of Gaudiya Visnavism, International Journal of Hindu Studies, 査読有, Vol. 18, Issue 2, 2014, 153-179, DOI: 10.1007/s11407-014-9156-8

[学会発表] (計 8 件)

Okita, Kiyokazu, When a Royal Pandit is Refuted: Court, Conflict, and Controversy in Eighteenth Century Bengal, Bengali Vaishnavism in the Modern Period Workshop, 2015 年 3 月 28 日、オックスフォード (イギリス)

Okita, Kiyokazu, No Entry Unless Authorized: Hindu Theology and the Question of Qualification, 12th Annual Dharma Academy of North America Conference, 2014 年 11 月 21 日、サンディエゴ (アメリカ)

Okita, Kiyokazu, Negotiating God ' s Sexuality in Early Modern South Asia: The Bhagavata Purana Book X and its Commentarial Tradition, Sex in the Margins: Commentaries and the Histories of Sexuality and Gender, 2014 年 10 月 1 日、デーヴィス (アメリカ)

Okita, Kiyokazu, Negotiating God ' s Sexuality in Early Modern South Asia: The

Bhagavata Purana Book X and its Commentarial Tradition, 2014年9月26日、日本南アジア学会第27回全国大会、大東文化大学(埼玉県東松山市)

Okita, Kiyokazu, Hindu Theology and the Question of Qualification: A Reflection based on a Study of Gaudiya Vaisnavism, 31st Annual STIMW (Sanskrit Tradition in the Modern World) Symposium, 2014年5月23日、マンチェスター(イギリス)

Okita, Kiyokazu, History Says Otherwise: On Hindu-Muslim Relations in Early Modern South Asia, Facing the Other, Facing the Self: A Kyoto University Dialogue on Multicultural Society, 2014年3月6日、京都大学(京都府京都市)

Okita, Kiyokazu, Was Krsna Married? An Early Modern Controversy Surrounding the Bhagavata Purana Book X, Workshop: Translating the Bhagavata Purana, 2013年10月1日、ハイデルベルク(ドイツ)

Okita, Kiyokazu, Quotation, Quarrel and Controversy in Early Modern South Asia: Appaya Diksita and Jiva Gosvami on Madhva's Untraceable Citations, Deutscher Orientalistentag 2013, 2013年9月24日、ミュンスター(ドイツ)

〔図書〕(計4件)

置田清和 他、ミネルヴァ書房、よくわかる宗教学、2015、78-79

Okita, Kiyokazu, オックスフォード大学出版会, Hindu Theology in Early Modern South Asia: The Rise of Devotionalism and the Politics of Genealogy, 2014, 304

Okita, Kiyokazu and others, Ashgate, Caitanya Vaisnava Philosophy: Tradition, Reason and Devotion, 2014, 61-66, 75-112

Okita, Kiyokazu and others, Manohar Publishers, Bhakti beyond Forest: Current Research on Early Modern Literatures in North India 2003-2009, 197-214

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

(1) 京都大学教育研究活動データベース
<https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/yB3a0>

(2) オックスフォード大学出版会ブログ
Okita, Kiyokazu, A Festival of Colorful Emotions, 2015年3月4日
(<http://blog.oup.com/2015/03/holi-festival-history/>)

Okita, Kiyokazu, Celebrating Linguistic Diversity on International Mother Language Day, 2015年2月21日
(<http://blog.oup.com/2015/02/international-mother-language-day/>)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

置田 清和 (OKITA, Kiyokazu)
京都大学・白眉センター・助教
研究者番号：70708627

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：